

2016年6月号

J-SHINE 通信

今回は小学生から中高生までの幅広い年齢層の子どもたちを指導者し、小学校で感覚的に楽しく英語を学んだあと、中学校では論理的に英語を学ぶ方向に変換していけるよう、日々子どもたちと真摯に向き合っている渡辺さんの実践報告です。



渡辺享子さん

J-SHINE 小学校英語上級指導者。大阪府私立中高一貫校で教師として勤務する一方神戸市イングリッシュサポーターとして公立小学校の英語活動にも携わる。

■ J-SHINE 資格、上級指導者資格取得のきっかけ

大学時代、中学・高等学校の教員免許は取得しましたが、わが子の英語子育てをするうちに、幼児や小学生の発達に応じた教授法や教育心理を学びたいと思うようになりました。ちょうどその頃、小学校の英語教育についての世論が活発となっていたこともあり、2005年にJ-SHINE資格を取得しました。その後、育児がひと段落つき、小学校高学年で外国語活動が必修化となる2011年春を前に、神戸市教育委員会に問い合わせたところ、近隣の小学校でイングリッシュサポーターを募集しているとの情報を頂き、その4月から小学校の英語活動に携わるようになりました。その後、授業時間数等の条件をクリアし、校長先生の推薦を頂いて、上級指導者資格を取得しました。

■ 現在の活動状況

私がお世話になっている神戸市立なぎさ小学校では、5、6年生の年間35時間の授業をALT、HRT、イングリッシュサポーターの3名で分担し、それぞれが年間10～12時間を受け持ちます。ALTと一緒に授業に入ることがないため、英語を母国語としないJTEだからこそ教えられる役割を意識しています。例えば、運動会や自然学校など、その時期の学校行事に関連して、日本と外国の学校生活の違いをクイズ形式で出題したり、海外で誤解されやすい日本人の習慣、また間違いやすい発音などを紹介しています。子どもたちは、海外の話には特に関心が高く、色々な質問をしてくれます。外国語活動が異文化理解の上に成り立っていることを日々感じています。

1学年5クラス、1時間目から5時間目まで同じプランで授業を行います。クラスによって雰囲気や興味のある内容、反応は大きく異なります。イングリッシュサポーターの授業には必ずHRTがついて下さるため、HRTのご意向に合わせて発問形式を変えるなど、細かく対応できるように、ティーチングプランは幅を持たせて作成します。とは言え、先生方はとてもお忙しいので、個々に打ち合わせする時間はなく、学年の英語担当の先生と学期始めに授業内容、必要な教材等の確認をします。新年度の授業当日に初めてHRTにお会いするというのも少なくなく、先生がどのよう

な授業目標をお持ちなのか、どんなクラスにしたいとお考えなのかをその場で察知する力が求められますが、クラスのことを一番よく理解されているHRTのお考えをサポートするという姿勢を心がけています。

■ 今後の展望・課題・目標

普段は、中高校生と関わっていますので、小学生から高校生の過程で、どこでつまづきやすいのか等を時系列で見ることができません。中高の英語教師として実感する課題は、小学校が目指すところと中学高校で求められるところのギャップを子どもたちの意気を弱めることなく、いかに縮められるかということです。例えば、小学校では「聞く・話す」を中心として外国語に親しむということに重点が置かれています。英語を聞いて、こんなことを言っているのかなというのはわかる、それに対してYes、Noをはじめ簡単な受け答えはできる、授業時間数的にもその辺りが小学校英語の到達点ではないでしょうか。多くの児童が小学校の英語は「楽しい」と感じ、「できる」という自信をつけてくれているように思います。

一方、中学に入ると、英語を構文や文法を駆使して論理的に理解することが求められます。なんとなく、感覚的に捉えるだけでは満点はもらえませんが、残念ながら今の大学受験に十分対応できるとも言えません。英語を学ぶ上で、大まかに主旨を理解することは大切ですが、それに慣れ過ぎると、感覚的にわかるというレベルで思考をやめてしまいます。英語の捉え方を「感覚的から論理的に変換する」、このことが小さい頃から長く英語に親しんできた子どもほど難しく、時間がかかるように感じています。

このギャップをどうすれば小さくできるのか、簡単に答えを出せる問題ではありませんが、英語を学んでいる小学生の活動は進行形です。制度の改革や試行錯誤で、子どもたちの大切な成長を足踏みさせないためにも、小学校での英語活動は有意義なものなればならないと感じています。楽しいだけで終わらせることなく、他言語を学ぶということを意識した活動を通じて、子どもたちができるだけ違和感を持つことなく、英語学習を進めていけるように願い、今日も子どもたちと向き合っています。